

OBらが母校のためボランティア 野球場等を精密に整備

地崎道路が札幌工業高で

地崎道路(株)北海道支店(千葉立美取締役執行役員支店長)は八日、札幌工業高校のグラウンド整備を実施した。写真。同校OBを含む二十人が早朝から六

台の重機と十トトラック六台分の土を持ち込み、一万三千平方メートルに及ぶグラウンドを精密に整備した。同社は毎年同校から多くの学生を受け入れており、特に高橋勝之執行役員工務部長は野球部出身で親交が



ことしは予定していた七日が雨天中止となったため生徒の見学は行われなかったが、翌日は早朝から同校OB十一人を含む二十人が出勤し、グレーダー二台、タイヤシ

ヨベル一台、タイヤローラー二台、コンパインドローラー一台を持ち込み、雪がけで凹凸になったグラウンドを整備。

十トトラック六台分の土を持ち込んで夕方まで作業を続け、情報化施工による精密な整備を行った。

同社では「土木の現場は情報化施工により大きな変化を遂げている。生徒たちに見てもらえなかったのは残念だが、学校でTSを導入した授業の準備も進めているようなので、その折にはお手伝いしたい」と話していた。

情報化施工駆使し グラウンド整備

地崎道路支店が札幌工業高で実施
地崎道路北海道支店(千葉立美支店長)は八日、地域貢献の一環で札幌工業高のグラウンドを整備した。写真。

の縁で毎年この時期に実施しているもの。3回目となる今回は7日に土木科の生徒を対象とした特別授業として実施する予定だったが、雨で授業を中止し、活動は翌日に順延。卒業生11人を含む20人が参加し、同校機械科長の大西俊則教諭、土木科長の梶邦明教諭も立ち会った。



約1万3000平方メートルを情報化施工の技術を駆使して整地した。

同社では、学校からの要請があれば来年以降も活動を継続する予定だ。